第５回 長野広域連合ごみ処理施設整備計画等専門委員会 議事録

［日　時］ 平成 22 年 10 月 13 日　13:30～16:50
［会　場］ 東京ステーションコンファレンス
［出席者］　専門委員　　４名
　　長野広域連合　　６名
　　日本環境衛生センター　１名
　　エイト日本技術開発　　４名

委員会協議概要

（１） 第４回委員会議事録の承認

議事録について承認された。

（２） 施設規模について

事務局から、将来ごみ量及び災害ごみ発生量を踏まえた施設規模設定の考え方について説明し、協議を行った。

＜委員意見等＞

・災害廃棄物の処理日数は、２週間、１か月、２か月の３パターンにおける必要施設規模等を考慮して設定することが望ましい。処理日数としては事務局案の 30 日でよいと考えられる。
・災害廃棄物対策として、ストックヤードも検討することが望ましい。

（３） 施設建設スケジュールについて

事務局から、施設建設スケジュールについて説明し、協議を行った。

＜委員意見等＞

・総合評価方式での事業者選定は、発注仕様書や要求水準書等が完成していれば、入札広告後９か月から１年間あれば実施可能と考える。
・竣工目標から逆算してスケジュールを検討し、新施設の内容についてどの程度の検討期間が確保できるかを明らかにすることが望ましい。
・住民合意を得るための一手法として、先進的な施設を多く視察してもらうことが望ましい。
・施設の整備コンセプトや余熱利用方法などを十分に検討した上で発注することが、円滑な事業進ちょくにつながると考えられる。
・新施設の整備期間における既存施設の維持管理については、機能検査を実施するなど、施設の状況や使用年数等を考慮して補修点検計画を立案することが望ましい。

（４） 管理運営方式について

事務局から、管理運営方式について説明し、協議を行った。

＜委員意見等＞

・長期運営委託方式では必ずしも SPC を設立しない場合があることに留意する必要がある。

・DBO 方式の場合は、基本契約の下で、建設請負契約と維持管理契約の複数契約となることを示す必要がある。

・リスク分担について、民間側に依存しすぎると自治体側における技術力の維持や伝承に支障がある可能性も記載する必要がある。

・リスク分担について、必然的に発生する項目と確率的に発生する項目を分けるなど、違いがはっきりわかる整理を行うことが望ましい。

・PFI や DBO 方式での先進事例を調査した文献があるので調査することが望ましい。

（５） Ａごみ焼却施設の計画について

事務局から、Ａごみ焼却施設の計画について説明し、協議を行った。

＜委員意見等＞

[計画ごみ質]

・計画ごみ質の考え方は了承。高質ごみと低質ごみの低位発熱量の差は約 2.4 倍であるが、近年は２倍程度で設計する事例もあるので参考としてほしい。

・タービンの設計点については、注意して設定する必要がある。

・残さ率の設定についても問題ないと考えられる。

[技術的課題]

・Ａごみ焼却施設を、環境省の循環型社会形成推進交付金上の「高効率ごみ発電施設」とすることについては問題ないと考える。

・焼却飛灰を溶融するかについては、様々な視点から十分検討する必要がある。

・効率的なエネルギー回収方法や、付加価値の高い売電方法等を検討し、先進的な施設整備を目指してはどうか。

（６） 第６回専門委員会予定

平成 22 年 11 月 9 日（火）とする。

以上